

＼ 公民館×24時間の新たな居場所づくり ／

地域でつくる、いつでもつながる、 子どもの居場所づくり

鹿児島大学自治体政策論ゼミ

チーム：ねこのて

古賀彩也華 里見優太 末吉宝太郎
飯上紗奈 中園和希

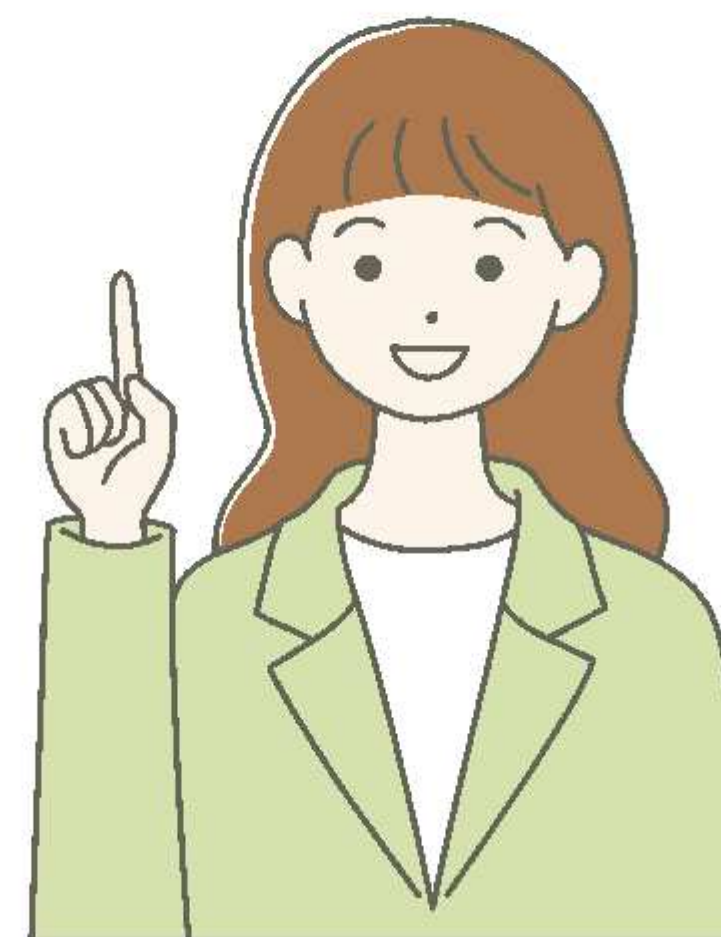


目次

1. 居場所づくりとは
2. 鹿児島県の子どもに関する現状
3. 課題
 - ・現状から考えられる課題
4. 居場所づくりの現状
 - ・鹿児島県の居場所づくりに関する事例や利用状況
 - ・居場所づくりに関するこども家庭庁の見解と注目した視点
5. 政策提案
 - ・アイデアの特徴、メリットデメリット
 - ・課題と対応策
6. まとめ

居場所づくりとは

おとなをはじめとする**第三者が主体**となり、こども・若者本人にとって**居心地が良いと思える場所**をつくること。



子どもに関する現状

少子化

虐待

ヤング
ケアラー

不登校

居場所の
必要性



少子化

子どもに関する現状

↓ RESASによる人口推移グラフ



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

鹿児島県の推計総人口は1,531,712人
(令和6年10月1日時点)で、令和5年10月か
らの1年間に16,972人（1.10%）**減少**。

年少人口は、2050年には129,875人
(11.09%)になると予想されてお
り、ますます**減少していく**見込み。

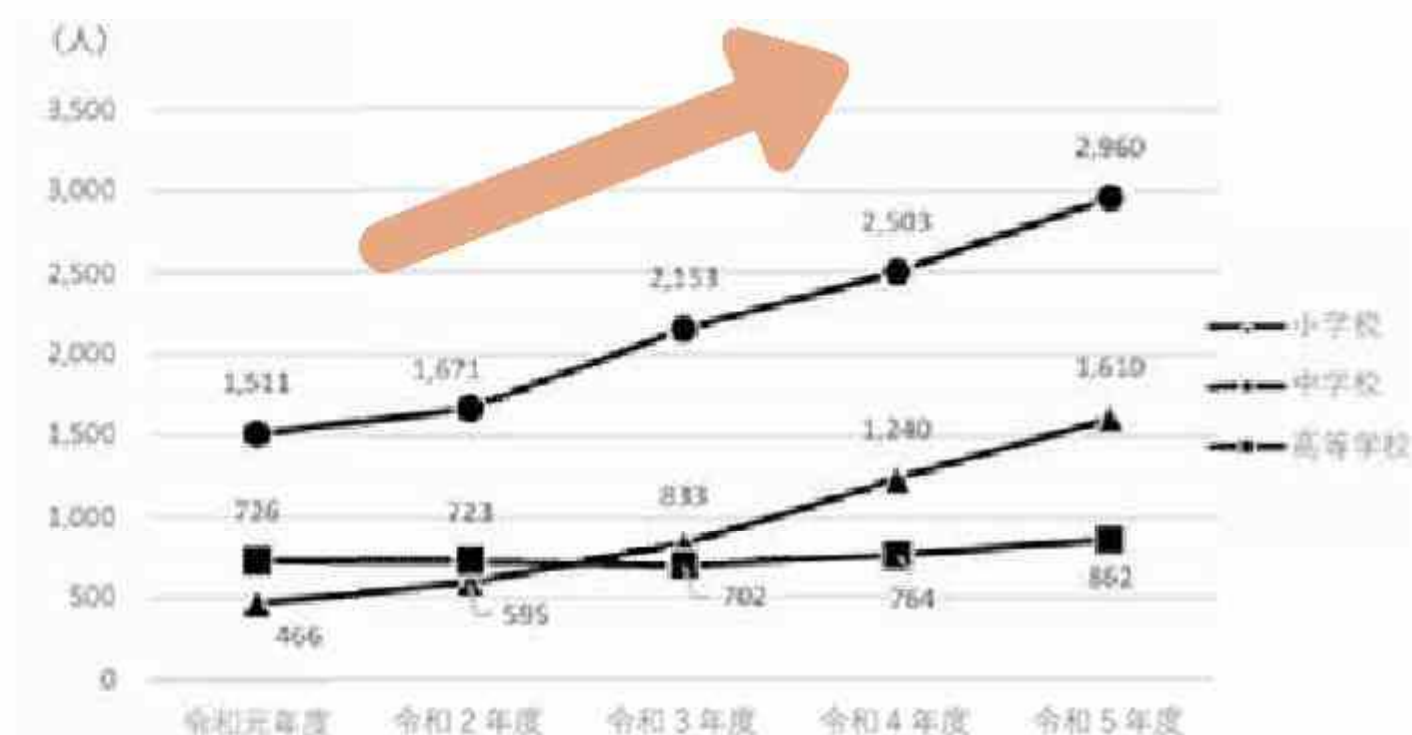
出典：RESAS地域経済分析システム(人口構成分析)

子どもに関する現状

不登校

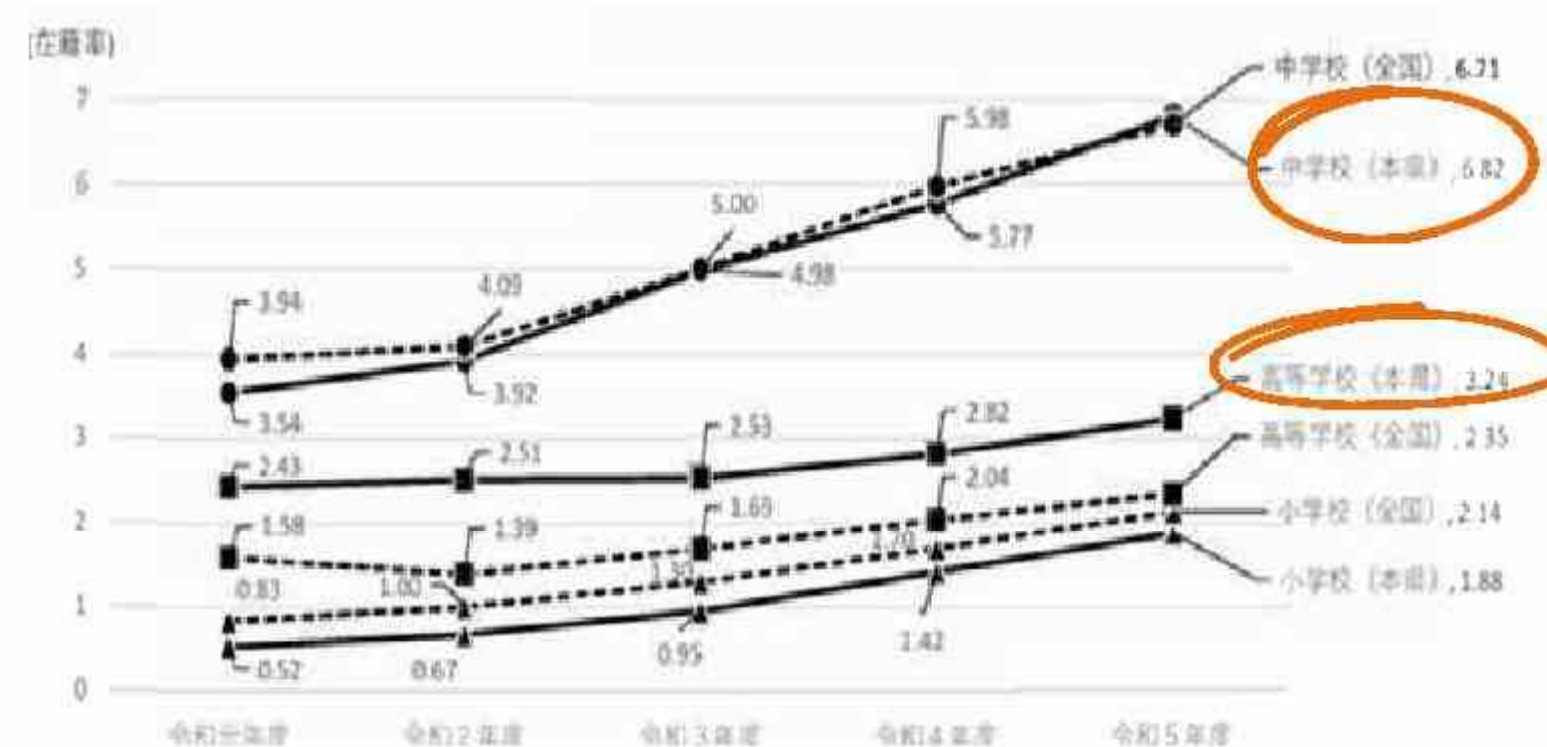
不登校児童生徒数は5,432人
年々増加傾向にある

↓ 鹿児島県公立学校の不登校の児童生徒数



中学校と高校では不登校児童生徒の割合は**全国を上回っている**

↓ 不登校の児童生徒の全国との比較



子どもに関する現状

虐待

↓ 鹿児島県のこども虐待相談の年度別推移



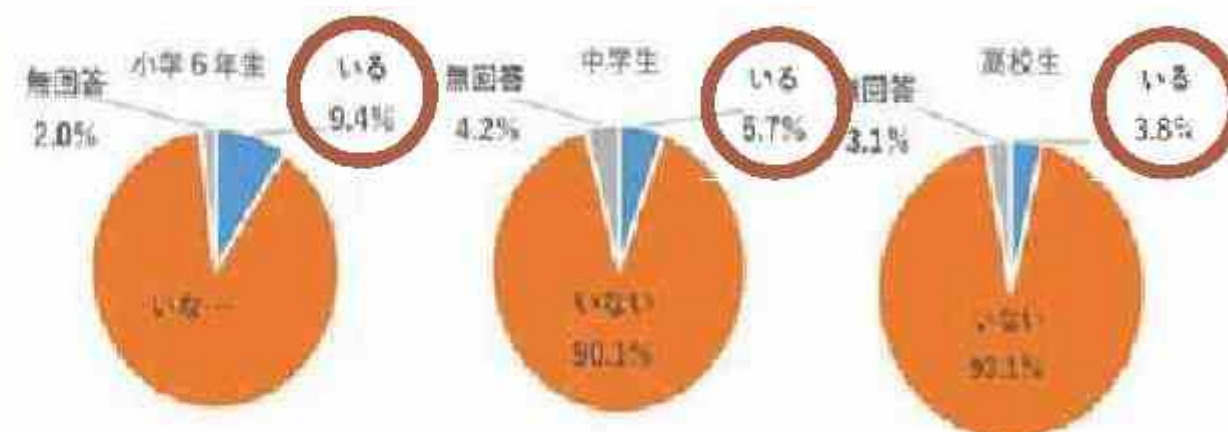
鹿児島県におけるこどもの虐待通告・相談の件数は4,809件で**過去最多**

出典：鹿児島県「令和6年度の虐待相談状況について」

子どもに関する現状

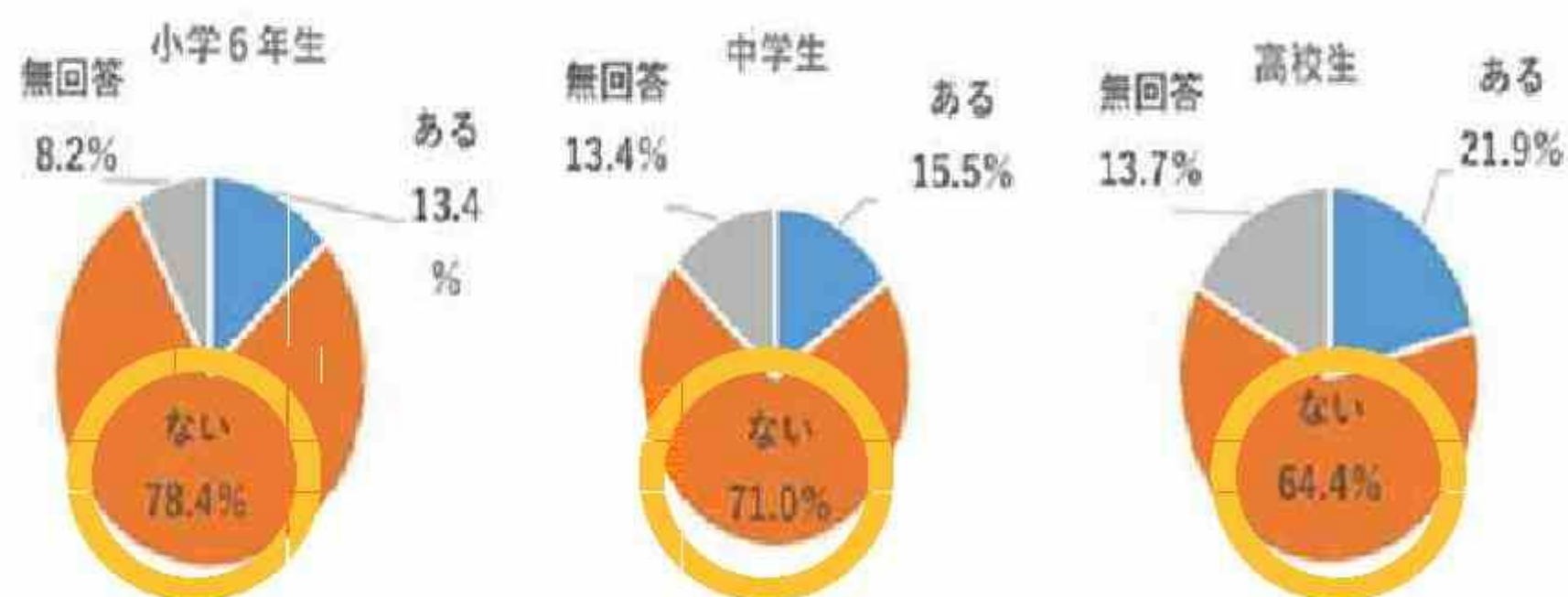
ヤング ケアラー

↓世話をしている家族の有無



資料：県子ども福祉課「ヤングケアラー実態調査」(調査結果①)

↓相談経験の有無



世話をしている家族のことや
悩みについて**相談したことがない**
という回答が多い。

子どもに関する現状

居場所の 必要性

↓ 学校に行けなくなった際に必要だと感じた支援について



「学校以外の居場所があること」
という回答が2番目に多い。

このことから**子どもの居場所
の必要性**が考えられる

現状から考えられる課題



子どもたちの 交流機会の創出

- ・ 少子化や地域のつながりの希薄化
- ➡子どもたちの交流の機会が減少しているのではないかな。

緊急避難場所の 創出

- ・ 不登校児童生徒数や虐待件数の増加
 - ・ 相談経験がない子どもが多い
- ➡気軽に相談できたり、いざという時に駆け込めたりする場所が必要があるのではないかな。

多様な居場所の 創出

- ・ 子どもを取り巻く環境や課題の複合化・複雑化
- ➡多様なニーズに応じた多様な居場所づくりが必要なのではないかな。

居場所づくりの現状 鹿児島県の取り組み事例

「子ども・若者 ホッ とスペース」

子ども・若者の社会的孤立を防止するため、経済的理由などにより、様々な困難を抱え、**学校や家庭以外で安心できる居場所**を必要としている**子ども・若者のための居場所**の運営

場所：県青少年会館2階

利用時間：9時～21時(火～土), 9時～17時(日)

活動内容：フリースペース・学習スペースの提供/見守りや学習支援, 悩みの相談、年4回ほどのイベント開催など

その他：申込不要, 無料, 出入り自由, 図書, フリーWi-Fi完備, 学生スタッフによる学習サポートなど

その他にも、県内に
放課後児童クラブ：41市町村656箇所
フリースクール・子どもの居場所等
多数あります。

参考：鹿児島県公式HP

居場所づくりの現状 鹿児島県の取り組み事例

支援制度・居場所等の利用状況

上段：今回調査 下段：内閣府調査 (全国)	利用したことがある	あれば利用したいと思う	今後も利用したいと思わない	今後利用したいかどうか分からない	無回答
ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）	9.9% (2.8%)	26.9% (20.1%)	22.9% (40.7%)	39.8% (33.6%)	0.5% (2.8%)
勉強を無料でみてくれる場所	5.5% (4.1%)	32.5% (37.7%)	23.9% (28.8%)	37.6% (26.8%)	0.5% (2.6%)
何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）	3.0% (2.7%)	14.8% (15.9%)	33.7% (39.7%)	48.0% (39.1%)	0.6% (2.6%)

全国と比較して制度や居場所を
「利用したことがある」の割合が
高い

表 「利用したことがある」と回答した割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査 (全国)	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値 以上	中央値の 2分の1 以上中央 値未満	中央値の 2分の1 未満	ふたり親 世帯	ひとり親 世帯	うち 母子世帯
ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）	9.9% (2.8%)	7.4% (2.3%)	10.0% (3.6%)	10.0% (3.4%)	8.5% (2.4%)	9.1% (6.7%)	9.5% (7.0%)
勉強を無料でみてくれる場所	5.5% (4.1%)	5.5% (3.0%)	5.3% (4.3%)	8.9% (9.5%)	5.7% (3.4%)	6.1% (9.8%)	6.1% (10.8%)
何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）	3.0% (2.7%)	2.6% (1.9%)	3.4% (3.3%)	3.1% (4.6%)	2.9% (2.3%)	2.9% (6.1%)	3.2% (5.6%)

一方で、収入の水準が最も低い世帯やひとり親世帯では、勉強を無料で見てくれる場所や何でも相談できる場所を「利用したことがある」の割合が低い

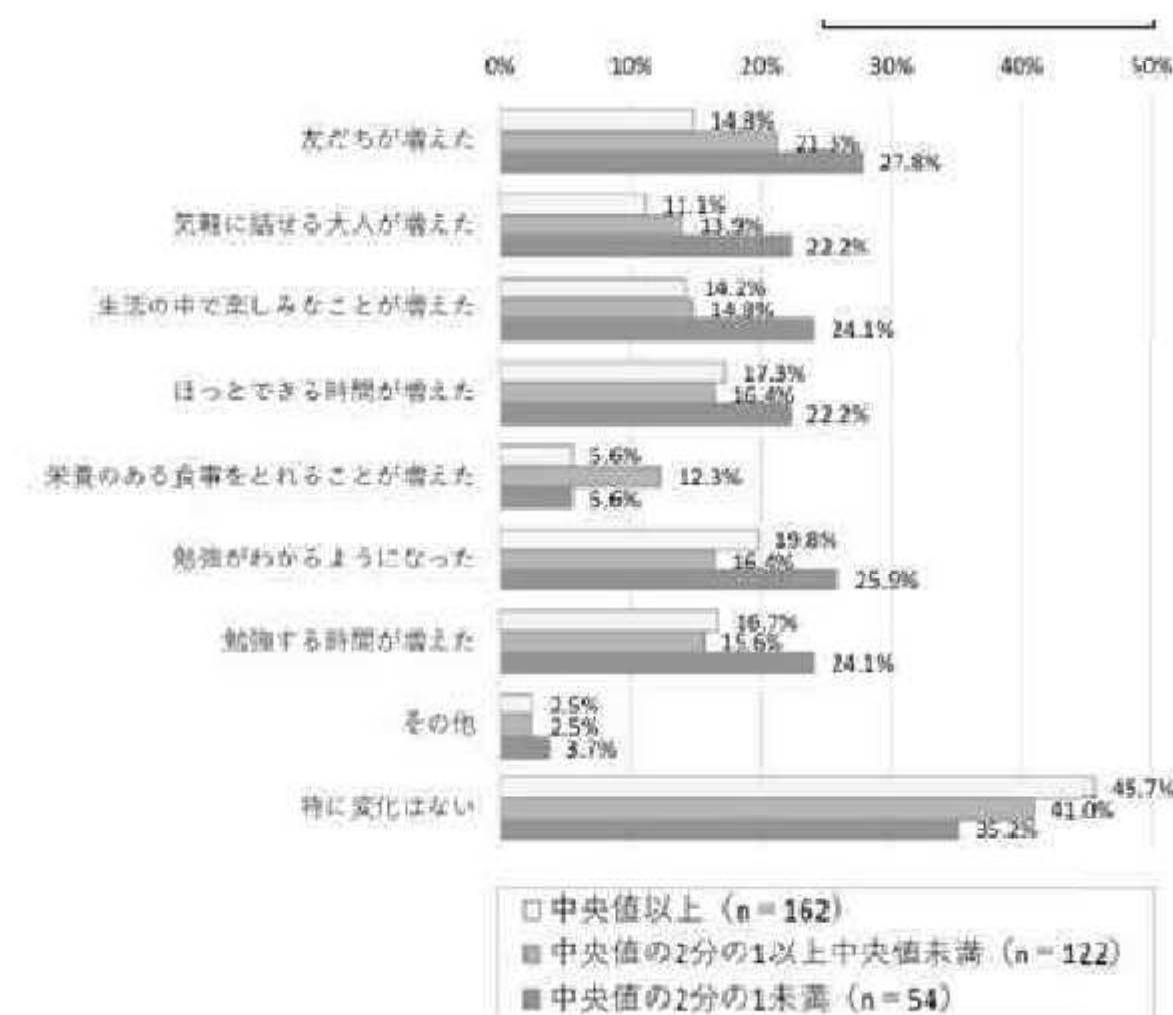
04

居場所づくりの現状 鹿児島県の取り組み事例

支援制度・居場所等の利用の効果

上段： 今回調査 下段： 内閣府調査 (全国)	友だちが増えた	気軽に話せる大人が増えた	生活の中で楽しむことが増えた	ほっとできる時間が増えた	栄養のある食事をとれることが増えた	勉強が分かるようになった	勉強する時間が増えた	その他	特に変化はない	無回答
利用による変化	16.5%	10.9%	12.8%	3.9%	6.1%	11.7%	12.5%	1.8%	34.3%	21.9%
	(21.5%)	(15.9%)	(29.9%)	(26.3%)	(5.7%)	(15.0%)	(21.5%)	(7.3%)	(33.8%)	(5.7%)

支援制度や居場所等の利用により、
「友だちが増えた」「ほっとできる時間が増えた」などの変化があった。



特に、**収入の水準の低い世帯で顕著**である。

現状 県の事例や居場所づくり、利用状況から考えたこと

子どもの居場所の拠点は多い

地域によって拠点数に差がある

有料が多数
(自治体により差がある)

24時間運営の居場所は見受けられない

居場所の利用によるプラスの効果は
収入の水準が低い世帯で顕著

経済状況が困難な世帯では
居場所の利用割合が低い



経済状況や地域で利用の
しやすさに差が生じない
居場所が必要

いつでも利用できる
「行きやすい居場所」

交流と緊急避難場所
両方の機能



政策提案

アイデア提案で参考にしたい
子ども家庭庁の視点



「こども・若者の居場所づくりに
おいて大切にしたい視点」より

行きたい

- ・ 身近にある
- ・ いつでも行ける
- ・ お金がかからない
- ・ 同じ境遇や立場の
人がある

ふやす

～多様な子どもの居場所
がつくられる～

- ・ 既存の地域資源を
柔軟に活用した居
場所づくり

「こどもの居場所づくりにおけ
る4つの基本的な視点」より

つなぐ

～子どもが居場所につながる～

- ・ 見つけやすい、
選びやすい、
つながりやすい工夫

みがく

～子どもにとってより良い
居場所となる～

- ・ こども・若者の居場
所づくりへの参画
- ・ 居場所同士や関係機
関が対話し、連携・
協働した地域全体の
居場所づくり

参考：こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する調査研究 報告書概要」



政策提案

アイデアで大事にしたい7つの視点

行きたい

ふやす

～多様な子どもの居場所
がえられる～

つなぐ

～子どもが居場所につながる～

みがく

～子どもにとってより良い
居場所となる～

子ども家庭庁の見解の中で着目した点

県の取り組み事例や現状から考えたこと

経済状況や地域で
差が生じない方法はないかいつでも利用できる
「行きやすい居場所」交流と緊急避難場所
両方の機能

政策提案

アイデアの概要



“いつでもつながる”新たな子どもの居場所づくり

対象：鹿児島市の小学生～高校生

拠点：公民館

開放時間：24時間運営

無料・申し込み不要

目的

- ・そこに行けば誰かが必ず居て、**交流**したり、悩みなどを**相談**できたりするとともに、いつでも駆け込める**緊急避難場所**としても利用できる居場所をつくる。
- ・身近な存在である**公民館**の一角を**24時間運営の居場所**として開放することで、子どもたちが**いつでも集まることができる**居場所を地域でつくる。

政策提案

活動の基盤

活動時間



昼の部：8時～20時
夜の部：20時～8時
24時間体制

スタッフ体制



昼の部：男女1人ずつ
夜の部：男女1人ずつ
1日に4名

特に夜間のスタッフの
安全性の確保も図る

スタッフに対する安心感や
利用のしやすさにつなげる

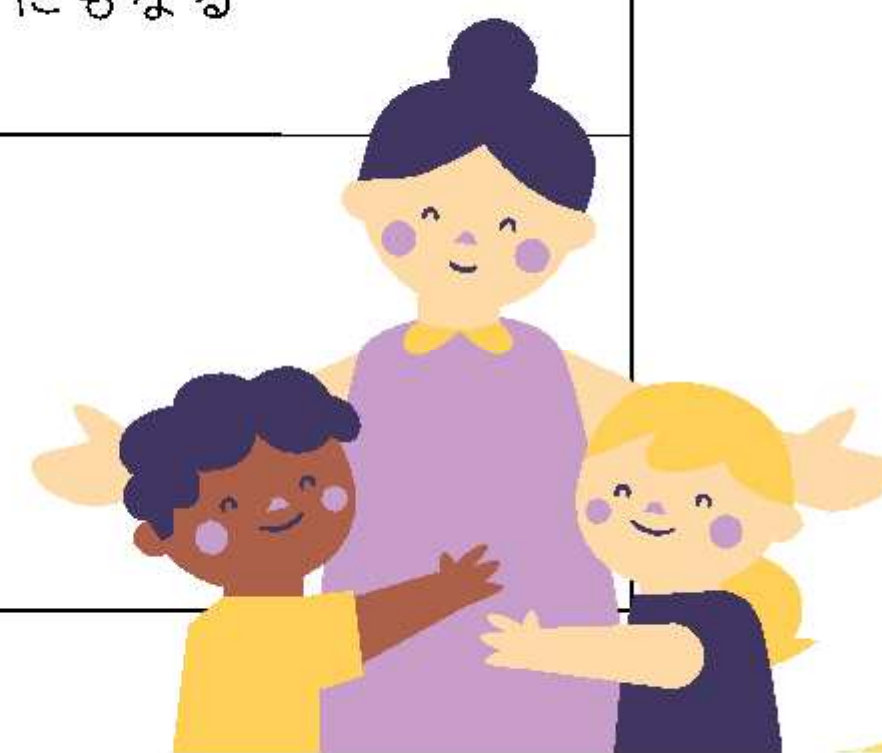
実施公民館

92か所（鹿児島市内）
行きやすい



まずは鹿児島市内から

条件	特徴
公民館	・身近にある ・地域差(施設数など)が生じにくい ・既存の地域資源の活用にもつながる
24時間運営	・子どもたちがいつでも利用できる ・家庭内での虐待などからの緊急避難場所にもなる
無料・申し込み不要	・経済面でのプレッシャーがない ・利用のハードルが低い



政策提案

アイデアのメリット・デメリット

条件	メリット	デメリット	
公民館	・ 見つけやすい, つながりやすい, 行きやすい ・ 各公民館や自治体との連携・協働がしやすい ・ 設備が整っている	・ 公民館を居場所として利用できるという情報がこどもたちに届きにくい	課題1
24時間運営	・ 行きやすい ・ 同じ境遇や立場の子, 気軽に相談できる相手が見つかる可能性がある	・ 深夜帯の利用者も想定しているため24時間人材が必要	課題2
無料・申し込み不要	・ 行きやすい ・ 家庭の経済状況による差が生じること(利用したくても金銭の問題により利用できないなど)を防ぐことができる	・ 無料利用を実現しながらの資金確保と運営が懸念される	課題3

課題1

情報の周知

案1：学校でのお知らせ配布

各公民館の近隣の学校を通して、「いつでも利用できる公民館がある」ことを知ってもらう情報を記載したお知らせを学級単位で配布してもらう。

メリット：ほぼ確実に手元にわたる、見てもらいやすい

デメリット：学校に通っていない子どもたちには行き届かない可能性がある

学校に通っていない子どもたちには、どのように情報を届ける・・・？



①居場所お知らせサイトの作成or活用

②地域の掲示板へお知らせを掲示

課題1

情報の周知

①居場所お知らせサイトの作成

↓ 鹿児島県内の児童生徒のインターネット接続機器の所持率

調査対象	令和6年 保護者	令和5年 児童生徒
小学校	81.3	79.5
中学校	94.0	94.8
高等学校	99.5	98.6
特別支援学校	78.6	68.1

↓ 自分専用の携帯電話の所持率

調査対象		令和6年 保護者	令和5年 児童生徒
小学校	従来型携帯電話	27.3	29.0
	スマートフォン		
中学校	従来型携帯電話	68.8	67.4
	スマートフォン		
高等学校	従来型携帯電話	98.8	98.1
	スマートフォン		
特別支援学校	従来型携帯電話	31.4	30.2
	スマートフォン		

県内の児童生徒でインターネット接続機器を所持している人は比較的多い。

→携帯から**居場所の検索**をすることができればよいのではないだろうか。

参考：令和6年度「インターネット利用等に関する調査」結果

課題1

情報の周知

①居場所お知らせサイトの作成

東京都小金井市のサイトの事例
『えにえに』

「いまのきもち」
「くわしくさがす」
「ここから近い場所で」
したいこと・ききたいことから
あなたのきもちにあった場所を
さがせるサイト。



あったらいいな機能

★ 今の気持ちやエリアなどを選択すれば、ぴったりの公民館を提案してくれる

★ 携帯の位置情報システムを利用し、より近くの公民館を提案する

参考：小金井子どもの居場所サイト「えにえに」

課題1

情報の周知

①居場所お知らせサイトの活用

鹿児島市のサイトの事例
『地域資源マップ』

介護・高齢者、障害、子ども・子育て等の分野において、地域で行われている福祉活動や集いの場等が「地域資源」としてマップにまとめられている。

オープンデータマップ

1. 組織を選んでください
鹿児島市

2. 地図を選んでください

ステップ1

地域の福祉活動や集いの場(地域資源マップ)の口をチェックを入れる。

3. 位置情報を選んでください

☐ 暮らしの情報
☐ その他
☒ 健康・福祉
☒ 地域の福祉活動や集いの場(地域資源マップ)
☐ 介護施設ボランティアポイント登録事業所一覧

ステップ2

マップ上に表示された行きたい場所のマークをクリックすると、対象者や活動日時、料金など詳細を教えてください。

既存の施設検索マップなどを活用し、公民館の検索に特化した仕様を取り入れる

課題1

情報の周知

②地域の掲示板へお知らせの掲示

携帯を持っていない子や自由にインターネットに接続することができない子は、サイトへのアクセスが難しい・・・



地域の掲示板に、居場所（公民館）に関するお知らせを掲示させてもらう

携帯機器を持っていない子どもたちやネット環境にアクセスしにくい状況にある子どもたちにも情報を届ける



居場所お知らせサイトのQRコードも記載し、**サイト自体の情報周知**も行うことで、サイトの認知度向上や居場所（公民館）へのつながりやすさ向上を図る

課題2

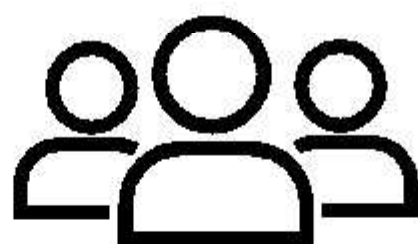
学生の参加があれば、若者の居場所づくりへの参画や地域での活躍にもつながる期待も。

人材の確保

- 登録制
→ ボランティアの安定的な募集
- シフト制
→ 24時間体制の円滑な運営

案1：ボランティアを募集する

NPOや学校関係者等専門性を持つ支援層に加え地域住民等幅広い層に募集をかける



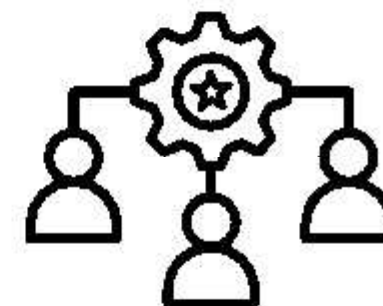
応募者は個人で専用のプラットフォームに登録してもらう



登録者は毎月1ヶ月分のボランティア参加・不参加希望日を提出し、それに基づきシフトを作成する



シフトに基づきボランティアに参加してもらう



課題2

人材の確保

案2：報酬有りの条件で募集する

例：シルバー人材センターからの派遣 ※シルバー人材センターとの連携の必要性

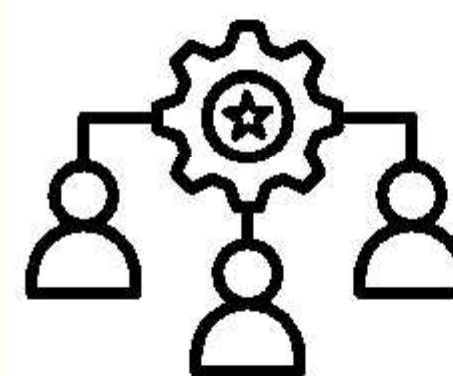
シルバー人材派遣センターで募集する。



募集で集まった人材をシフトに組み込む



シフトに基づき居場所のスタッフとして従事してもらう



- ・シルバー人材派遣センターによる安定的な人材確保
- ・報酬によるモチベーションアップ



しかし・・・報酬有りの場合、人件費だけで莫大な予算が必要になる。
事業を息長く続けるためにも
基本的にはボランティアで人材を確保できるのが理想。

高齢者に居場所のスタッフを担ってもら
うことで、子どもと高齢者の交流機会や
高齢者の地域での活躍も期待できる。

課題3

行政支援とクラウドファンディングを軸とし、PTAや町内会からの協力も一部可能性として視野に入れる

主軸

クラウドファンディング
行政支援

一部出資

PTA会費
町内会費

資金の調達

クラウドファンディング

居場所づくり事業やクラウドファンディングの目的などを明確にしたり、SNSを活用した宣伝など工夫次第では協力を得やすいのではないかな。

行政支援

予算化や制度化を視野に入れるなら主軸にできないかな

PTA会費

学校教育活動以外での使用のハードルがあるのではないかな。保護者からの理解を得ることが困難。

町内会費

使途が決まっている、会費を簡単には上げられない、その他様々な理由から自治体や世帯の理解を得ることが困難

課題

対応

居場所づくりが学校との連携がある場合は考えてもらえる可能性がある…？

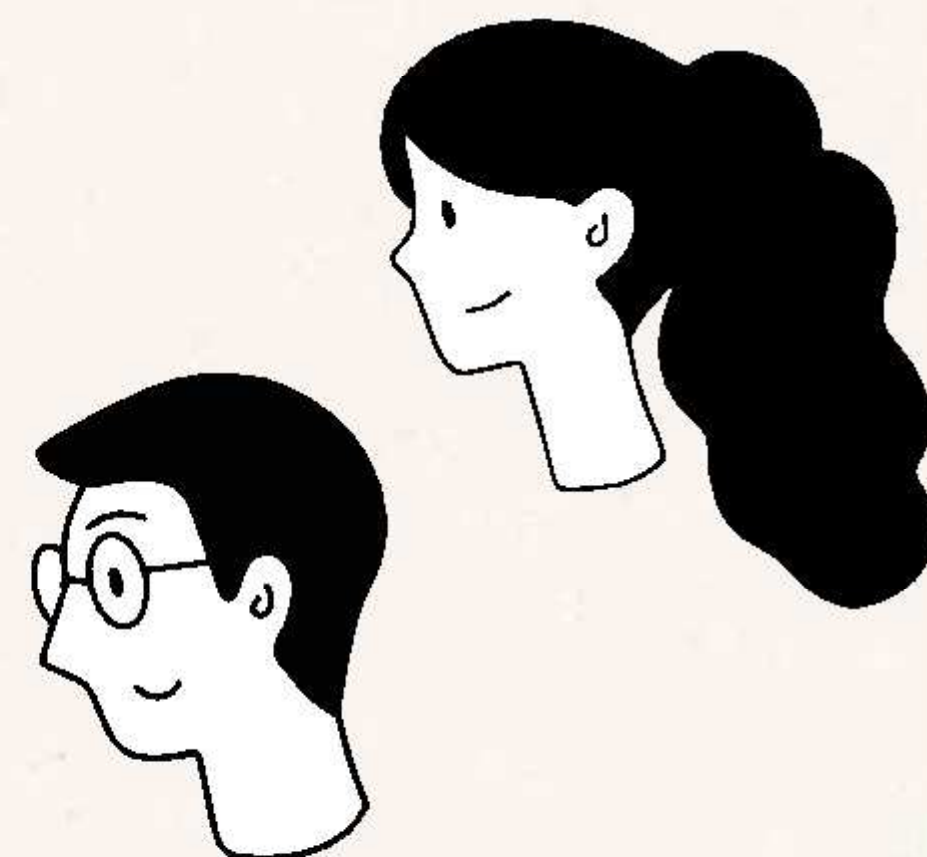
試験的に一部助成や物品提供などの協力から考える

人材の確保[案2]の場合にかかる人件費（参考）

年間想定人件費 約**18** 億円

内訳

時給 1 1 0 0 円 × 12 時間 × 4 人 × 3 6 5 日 × 9 2 か所



※「人材の確保[案2]」の場合に必要な人件費。

※その他、設備管理費や光熱費など実際にはさらなる政策費用が必要となる。

“いつでもつながる”新たな子どもの居場所づくり

- ・地域に身近にある公民館の一角に24時間集える場をつくることで、家庭の経済状況や住んでいる地域によらず、**全てのこどもたちが“いつでもつながる”ことができる、人にも場所にもつながりやすい居場所をつくる。**
- ・こどもを取り巻く現状や多様なニーズに応じた、**24時間運営と公民館で交流や相談の機会と緊急避難場所の両機能**を持つ**新たなかたちの居場所をつくる**ことで、子どもを取り巻く課題や多様なニーズに対応していく。
- ・居場所の運営を通じて、居場所づくりへの**若者の参画**や**高齢者の地域での活躍の機会創出**にもつながる期待ができる。